

平成26年度 清瀬市立清瀬第二中学校 学校評価 評価表							
学校教育E健康(よりたくましく 心身をきたえる) 愛情(より豊かな 心をつちかう) 学力(より深く 自ら学ぶ) 勤労(よりよくはたらき 責任をはたす)							
目指す学校像(ビジョン)							
1. 確かな学力を身につける(指導法の工夫により基礎・基本的な知識や技術を確実に身に付けさせる) 【目指す】2. 自己実現に向けて努力する(キャリア教育を通して将来について考え、社会に出て通用する生徒を育てる) 3. 豊かな心や健やかな体を育成する。(生命尊重の教育を実践し、全教育活動を通じて心身を鍛える) 【目指す】1. 豊かな情操を育む生徒 2. 自ら考え判断し行動する生徒 3. 社会性のある生徒 4. 心身ともに健康な生徒 【目指す】1. 共に力を出し合う教師 2. 課題を発見し、改善に繋げる教師 3. 自己研鑽に励み自らを高める教師							
前年度までの学校経営上の成果と課題							
1. 教職員の異動が多いため、組織を再構築し、課題解決へ組織で動く体制を整える。また、職層に応じた役割を明確にする。 2. 基本的な生活習慣の確立が長年の課題となっている。生徒理解や家庭地域との連携を密にし、根気強く指導にあたり、自ら規律遵守ができる生徒を育成する。							
	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標	
確かな学力の向上	校内研修を通して特別支援教育や授業研究を行い、授業規律の確立と授業力を高める。	3	4	特別支援教育の研修会を発展させ、講師招聘や研究授業を行った。それが生徒理解へ繋がり、個に応じた指導や体制が整いつつある。			
	漢字検定、数学検定、英語検定などを定期的に実施し、能力の伸長と学習意欲を向上させる。	3		各検定試験へ挑戦する生徒が増え、それが学習意欲と繋がりがつつあるが、合格率を高めるために、放課後補習などの取組を行っていく。			
豊かな心の育成	1年生・2年生で職場体験(3日間)の実施や外部人材を活用してのキャリア教育を実施する。	3	4	2学年での職場体験では、将来を見据えて、進路を意識させることができた。1学年では、導入として外部人材を活用し、働くことの意義を学ばせる。			
	年3回のアンケートの実施、SCによる面接や定期的に相談週間を設け、実態を適切に把握し、問題の未然防止に繋げる。	4	4	アンケートやSCによる全員面接は、生徒の実態を的確に把握することに役立った。問題の早期発見・未然防止には、日々の観察や挨拶を継続して行う。			
健やかな体の育成	部活動では、技術向上に繋がる外部指導員の活用をする。部活動、地域クラブへの参加により運動習慣と体力向上を図る。	3	4	外部指導員との連携により、技術指導に効果が見られるようになった。継続して活用するとともに、指導方法も工夫していく。			
	個に応じたTTの授業、部活動などで持久走の自主練習を取り入れ、100%のマラソン大会参加率を目指す。	3		授業でのチームティーチングを生かして、習熟度別の個別指導を行っている。授業や部活動などで、持久走を取り入れていることで、持久力が高まりつつある。マラソン大会を自己記録更新の目標とさせる。			
本校の特色①	全教員が年間2回以上の研究授業を行う。	4	4	見合う時間確保のために、授業研究実施日・時間を複数設定したために、年2回以上の研究授業はクリアした。今後は、生徒が中心となった授業にするためにテーマを決めて実施していく。			
	教科、道徳、行事のねらいに応じた外部人材を活用し、目標達成や生徒の変容に繋げる。	4	4	学年によって実施学期の偏りはあるが、ねらいに応じた外部人材活用は、実施できている。生徒の変容に繋げるには、組織的に継続した指導を行っていく。			
本校の特色②	全校規模でクリーン運動、あいさつ運動、リサイクル運動を行う。	3	4	生徒会を中心として、クリーン運動、あいさつ運動、リサイクル運動を実施し、定着しているが、マンネリ化しないようにさらに工夫していく。			
	年間2回の街頭募金を東北の義援金として実施する 東日本大震災の勉強を実施して募金活動により多くの生徒の参加を促す。	3		生徒による義援金募金を二学期の始業式に実施した。義援金募金活動参加により、ボランティア精神が高まりつつあることが、学校生活の中で見られる。今後も継続して行っていく。			